

「此の寺の和尚さんは坊さんやろ」

「何寺の和尚さんでも坊さんやがな」

「然うやけども云ふやないか、誓願寺の和尚さん坊さんで、ぼたんに唐獅子竹に寅」

「コレ、それは唄やがな」

「やつぱり頭の丸」

「何處ぞに頭の四角い坊さんがあるか」

「京の眞中に六角の坊さんがある」

「彼れは六角堂の坊さんやがな、是が戎谷座、女の首振りや是が名高い和泉式部の舊跡軒端の梅、此處が蛸薬師や」

「蛸薬師て何や」

「昔此所に大きな池が有つて夜な〜怪物が現はれて人を取つて喰ふので、或る時一人の侍が来て其の怪物を退治せんと宵の間より池の邊りを廻つて居ると、夜も次第に更けて丑満頃池の中から蛸が現はれたんや」

「オイ一寸待ち、池の中から蛸が出るか」

「夫れが此の池の主やつたんや、侍目掛けて飛付いて來たので侍は長い奴を引抜いて蛸のどうびんを

切ると、そのどうびんが侍に嚙み付いて來たんや」

「ところが蛸には齒が無いので嚙めんは」

「そのどうびんを二つに斬ると空へ舞ひ上つたそれが別れて落ちた所が未だに残つて有る、東のどうびん西のどうびん」

「彼れは東の洞院、西の洞院やがな」

「今はそう云ふが昔は東のどうびん、西のどうびんと云ふたんや、蛸の足が八本残つたので串に指して焼いたそこで蛸やくしと云ふねん」

「眞實かいな」

「是は仁輪加や」

「しようむない仁輪加をしないな、私は又ほんまかと思つて聞いて居たがな」

「是が逆蓮華、此所が錦の天神や、此所が花遊軒と云ふて芋棒を喰はず染殿地藏、道場の芝居、此所が四條通り、之を東へ行くと四條大橋、南座に北座が向い合せになつて有る。京の四季の歌にそして櫓の差し向ひと云ふのは此所の事や、夫れ此所が万亭や芝居でする忠臣藏の七ツ目茶屋場、一力と云ふのは此所の事や」

「赤い門が有るなア」